

照葉樹林だより

ISSN 1880-8794

てるはの森の会 会報第 28 号

2011 年 10 月 20 日



綾の森・秋色 秋が深まると一面濃緑の照葉樹のなかで、溪谷沿いや道路脇の先駆植物や落葉樹が秋色に染まる。11月中旬、大吊橋近くの県道脇でハゼノキがひととき華やかな彩りを見せていた。 (2010年撮影 坂元守雄)

《 目 次 》

- ★ 「綾の照葉大吊橋」リニューアルオープン
- ★ 「子どもホタレンジャー」との出会い in 久米島
- ★ 持続可能な利用と保全の調和を図る「エコパーク」の理念
- ★ 綾の森の沢調査⑤ 照葉樹林は保水力があるのか
- ★ 本の紹介 「人と森の物語」
- ★ 照葉樹林展望コース 案内看板設置完了！
- ★ 事務局だより

発行：てるはの森の会

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島 2 - 9 - 6

みやざき NPO ハウス 403 号

TEL 0985-35-7288

FAX 0985-35-7289

E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp

URL: <http://www.teruhanomori.com>

「綾の照葉大吊橋」リニューアルオープン

綾町産業観光課 牧 浩一

2011年10月5日、深夜から降り続く雨の中、来賓、観光客合わせて約500人をお迎えして新「照葉大吊橋」のオープニングセレモニーが催されました。午前11時30分、本県初となるアルプホルンの演奏会などが花を添えた後、待望の開通です。

「照葉大吊橋」は、1984年9月、照葉樹林の保護と観光振興の願いを込めて架橋されました。以来、26年間、国内外から数多くの観光客の方が訪れ、架替工事直前の2009年には、年間14万人が訪れています。

まさしく観光のシンボルとして綾町の産業観光を牽引してきた「照葉大吊橋」ですが、2009年に詳細点検を行ったところ、一部にサビ等が見られたため、補修の必要性があると判断されました。併せて、国の経済対策臨時交付金が認められたことから、この機会に大掛かりな工事を行い、より安全性の高い吊橋に架け替えることになりました。

今回の架け替えで最大の変更点は、歩道部分の構造です。従前は、兩岸を結ぶ丈夫なH型鋼が2本、レールのように歩道の下を支えていましたが、新しい吊橋は薄い板状に鉄骨を組むことで、柔らかい構造になっています。そこで、歩道と手すりに風通しの良い材料を使い、風が吹いても揺れにくいように配慮されています。この結果、足元からの視野が広がり、あたかも空中散歩しているような開放感が新しい吊橋の特徴となっています。

10月5日のオープン以来、最初の1週間で1万人を突破するなど連日、多くの観光客が訪れています。自然と一体化するような感動、以前より増したスリル感など、感想は様々なようですが、期待されるユネスコエコパークの認定等、明るい未来への架け橋として、永く綾町を見守っていて欲しいものです。

(まきこういち・宮崎市)





「子どもホタルンジャー」との出会い in 久米島

事務局 下村ゆかり

8月25、26、27日の3日間、WWF JAPAN が取り組んでいる「久米島応援プロジェクト」の依頼で、当会の活動を紹介するため久米島へ行きました。

久米島は、沖縄本島那覇市の西方約100kmの東シナ海にあります。久米島町の総面積は63.21k㎡で、人口約8800人、約3800世帯が暮らしています。年間平均気温22.7℃、年間降水量は2,138.0mm、年間平均湿度は76.0%という気候条件の島です。丘陵地の印象は松の木が多く、島の南部にはリュウキュウマツ林やイタジイが優占する広葉樹林が広がっています。

久米島は昔、名前に「米」とあるように、湧水をせき止め、稲作が盛んに行われていました。この湧水は「山の球美ⁱ（くみ）汁」と呼ばれ、森の豊かな栄養分を含み白濁しています。今では水田の大半がさとうきび畑に替わり、休耕地では赤土がむき出しになっています。公共工事からの赤土流出もあり、そのような白濁した川を見ることができなくなっているそうです。

この白濁した川を取り戻すために活動しているのが「久米島ホタルの会」です。1993年に発足され、ホタルを蘇らせようとするのが水質汚染や不法投棄、ゴミ問題、赤土問題など久米島の深刻な環境問題を解決することにつながる、と広く取り組んでいます。「久米島ホタル館」の運営にも関わっており、施設の周辺でホタルの里山づくりやガイド、自然観察会等を行っています。

私たちが伺った時期はオキナワスジボタルがみごとに舞っていました。現地ではホタルの会事務局の方々と、元気いっぱいの「子どもホタルンジャー」に島の自然を案内していただきました。

森へ入る前に、「子どもホタルンジャー」による人形劇を鑑賞。かわいい声と優しい言葉で、豊かな自然が無ければ人間は生きていけないんだよ、と教えてくれました。

その後、ラムサール条約登録湿地を案内していただきました。オキナワスダジイ、オキナワウラジロガシなどの森があり、河畔林が発達し水質の良い溪流は枯れることがなく、希少野生生物のキクザトサワヘビなど固有種の重要な生息地になっています。説明を受けていると、子どもたちがドタドタと走ってきて、ホラッ！と手の中のものを見せに来てくれます。トカゲや大きなナメクジなど、いったいどこから見つけてくるのか不思議でしたが次から次へと手の中の生き物を披露してくれました。綾の森を歩く時は植物ばかりに目がとまり、動物と言えば山ヒル！シカ！といった具合です。もっと木の穴、土の中、葉っぱの下、色々のぞいてみると、それは沢山の生き物に出会えるんだろうなあと、今までの森歩きがもったいなく感じてしまうほどでした。子どもホタルンジャーたちは、週に1回は森の中を探検し、見つけた動物を調査票にまとめています！

当会活動の照葉樹林ガイドボランティアや植物林床調査など、森の活動に関する部門を掘り下げてもいいのでは、と感じました。今のままでは人手が足りませんが…。また、綾の子どもたちにとっても森が身近な存在になり、元気に走り回ってほしいと思いました。学ぶところの多かった久米島訪問でした。

(しもむらゆかり・宮崎市)

ⁱ 球美（くみ）とは米のことで、久米島は昔、球美と呼ばれていた。



持続可能な利用と保全の調和を図る ユネスコエコパークの理念

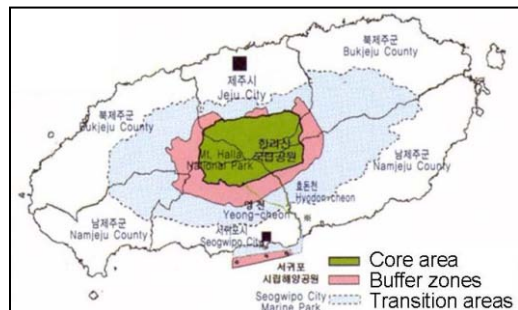
横浜国立大学教授 松田裕之

生物多様性条約には3つの原則があります。生物多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用、そして遺伝子資源から生じる利益の公正で公平な分配の3つです。ユネスコの人間と生物圏（MAB）計画は自然資源の利用と保全の調和を国際的に図るために、1971年に設立されました。同じユネスコの世界自然遺産は手付かずの自然を対象としますが、MAB計画は利用と保全の調和を図る地域を対象とします。そして、MAB計画の理念は日本政府の主張である「人と自然の共生」にも合致するものです。このパネル討論で、私はMAB計画の取り組みの一つであるユネスコエコパークのゾーニングの考え方と、日本におけるMAB計画の活動について紹介します。

ユネスコエコパーク（BR）のゾーニングの考え方

MAB計画の諸活動の一つとして、ユネスコエコパーク（日本における通称「ユネスコエコパーク」、英語はBiosphere Reserve、以下BRと略記）は地域社会の努力と適切な科学的助言に基づき、持続可能な開発を促すために作られました。BRは、自然と人間の結びつきを通じて、生物と文化の多様性を守ることと社会経済を発展させることを調和させるための場所です。したがって、BRは自然と人間活動を管理する斬新で最適な実践を行っていることが世界的に吟味され、紹介される優れた場所です。BRは持続可能な開発のための地球サミット、生物多様性条約の合意と生態系アプローチの取り組みを、締約国が実践することを助けるための場所です。

BRは、通常、核心地域、緩衝地帯、移行地域から構成されます。核心地域は、生物多様性を守り、できるだけ攪乱を与えずに、調査、非破壊的な研究や教育などの影響の少ない使い道だけが許される、厳格に保護された場所です。緩衝地帯は環境教育、行楽、エコツアー、応用研究、基礎研究などの生態系に優しい活動とみなしえる活動に利用される場所です。移行地域は持続可能な発展の中心的な役割を果たし、さまざまな農業活動、住居その他の利用を含むことができます。このようなゾーニングの典型的な例は、韓国済州島のBRです。



韓国済州島のBR

BRのゾーニングの考え方は、利用と保全の調和を図るMAB計画の経験から生まれた知恵です。BRの登録地域は、利用と保全の調和を図る取り組みの世界的な広がりとともに、海外では順調に増え続けています。2011年初頭には109の国に565のBRが登録されています。他方、世界遺産の登録は年々厳しくなっています。MABは右図の赤点で示すアジアと世界のBR登録地が互いに交流するためのネットワークを組織しています。

日本の世界遺産、国立公園、森林生態系保護地域は、BRのゾーニングを参考にしています。ただし、これらには移行地域が設けられていません。1980年に登録された日本の



アジアと世界のBR登録地

4つの既存のBRにさえ、移行地域はありません。もし、利用と保全の調和を図るためならば、これらの制度にも移行地域を設けるとよいでしょう。

ユネスコエコパーク (BR) の3つの役割

BRには、生物多様性の保全、持続可能な将来の発展、そして世界のネットワークを通じたの研究と観測という3つの役割があります。これらの使命を果たすために、2008年から13年にかけて、マドリード行動計画が取り組まれています。この行動計画の第9条では、すべてのBRに定期報告書を刊行するように求めています。

しかし、日本のBRはあまり活発ではありません。BR登録地でさえ、MABやBRという名前を知っている人は少ないでしょう。日本のMAB計画を活発にするために、私たちは名古屋で開かれた生物多様性条約第10回締約国会議において、その会期中の2010年10月26日に、「持続発展教育 (ESD) とユネスコ人間と生物圏 (MAB) 計画における我が国の取組に関するシンポジウム」という副行事を開催しました。私たちはその場にユネスコ本部からアナ・パーシクさんらを招いて参加していただきました。また、韓国から洪善基さんも招待しました。この副行事のあと、綾町は彼らを綾町に招待し、視察してもらいました。

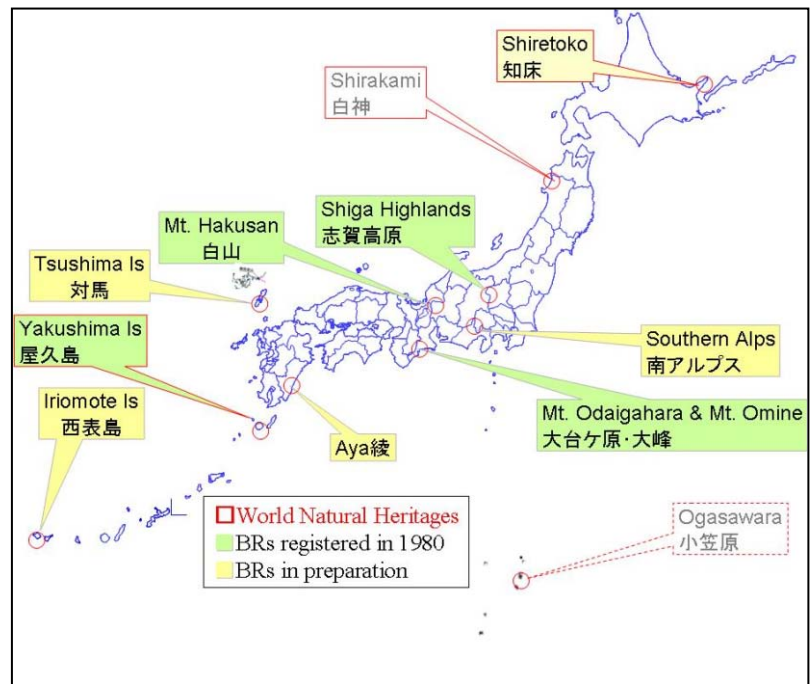
ユネスコエコパーク (BR) と世界遺産

新たに日本のBRを登録するためには、自然の価値のすばらしさを示すだけでなく、科学者、市民、地方自治体が協力してBR活動に取り組むことが大切です。これは、世界自然遺産が法的規制による自然保護を重視しているのとは違いますが、例えば知床世界遺産でも、登録までに漁業者が自主管理を進めた取組みは、国際的に高く評価されています。

日本の4つの既存のBRとこれからBR登録を検討している地域の交流を促すために、日本MAB計画委員会は「日本ユネスコエコパークネットワーク」(J-BRnet)を設立しました。そのメンバーには屋久島、白山、志賀高原、大台ヶ原大峰の4つのBRだけでなく、知床世界遺産、南アルプス、綾、西表、対馬のかたがたを加えました。世界遺産となった知床においても、BR登録は科学委員会の中で議論され、町の職員や地域の人々が参加しています。ガラパゴスも、世界遺産登録後にBR登録しています。

私たちは、利用と保全の調和を図るために、日本でMAB計画を活発にしようとしています。人間社会と自然の持続可能な関係を進める人達がMAB計画の理念に関心を寄せてくれることを願っています。

(まつだひろゆき・神奈川県横浜市)



日本ユネスコエコパークネットワーク (J-BRnet) のメンバー



綾の森の沢調査⑤

照葉樹林は保水力があるのか

会員 林裕美子



カット：古田栄子

綾南川沿いに植えられた杉や檜の植林地が成長するにつれて、川へ流出する水の量が減ったことを前回お話ししました。植えられた木が杉や檜でなく照葉樹でも同じことなののでしょうか？そこで今回は、照葉樹林と針葉樹林から流れ出る水の量が違うのかどうかを調べてみました。

2ヶ所の沢の流量の変化を比較する！

前回、行政データを調べた時には、1年間の水量の合計が、年を追うごとにどのように変化するかを見ました。今回は、流域のほとんどが照葉樹自然林の沢と、流域のほとんどが針葉樹人工林の沢へみんなで毎月1回出かけて行って、自分で流量を測ってみました。川中神社の近くにある2ヶ所の沢です。

流量は、どちらの沢も夏に多く、冬に少ないという傾向を示しました。夏の方が雨が多いため当たり前のことです。ところが、2つの沢の流量を月ごとに比べてみると、夏には針葉樹林の沢の流量のほうが多く、冬には照葉樹林の沢の流量のほうが多いことがわかりました。雨が少ない季節には照葉樹林のほうが流れ出る水が多いということなのでしょうか？

コンクリートの地面に雨が降ると、降った分は一度に流れてしまいます。スポンジの上に雨が降ると、スポンジが吸いきれなかった分はすぐに流れ出ますが、雨が降り終わったあともスポンジからポタポタと水がたれます。照葉樹の森の土壌も、スポンジのように冬に水を流出させているということでしょうか。しかし、調べた2つの沢は、斜面の向きが北向きと南向きであることや、地下へ

入りこんでゆっくり流れ出す水量を比較するすべがないことなどから、照葉樹林は保水力があるとは断言できません。

30ヶ所の沢の流量を一斉に調べる！

そこで、綾南川と綾北川へ流れ込む30ヶ所ほどの沢を、これもみんなで手分けして、雨が少ない11月に流量を一斉に調べてみました。国有林と県有林の森林データをもらい、その沢の集水域の照葉樹林と針葉樹林の比率を調べ、水量を集水域1km²あたりの量に換算しました。そうしたら、照葉樹林の面積が多い沢のほうが、流量が多い傾向があるということがわかりました。照葉樹林のほうが保水力があるという結論に少し近づいたような気がします。

しかし、この一斉調査では、雨が少ない11月の沢の流量しか測っていません。これらの沢が集まって流れる綾南川の40年間の流量データでも調べてみましたが、残念ながら、綾南川の流量の変動からは、照葉樹林のほうが保水力があるかどうかはわかりませんでした。

森に降った雨は、単純に地面を流れて川になるのではなく、川にたどり着く前に蒸発してしまう分もあれば、木が吸い上げて葉から放出する分もあり、地面からしみこんで地下深くの水脈になる分もあります。こうした、人の目には見えない部分の水の流れがあるので、森に保水力があるかどうかを知ることは結構難しいのです。

(はやしゆみこ 宮崎市)



本の紹介

『人と森の物語』

池内 紀 著 集英社新書 2011 年刊 定価 777 円

会員 小川 渉

著者の池内紀（いけうち・おさむ）氏は、ドイツ文学者でエッセイストとしても知られています。分野は多岐にわたりますが、旅や森に関する作品が特に親しまれています。

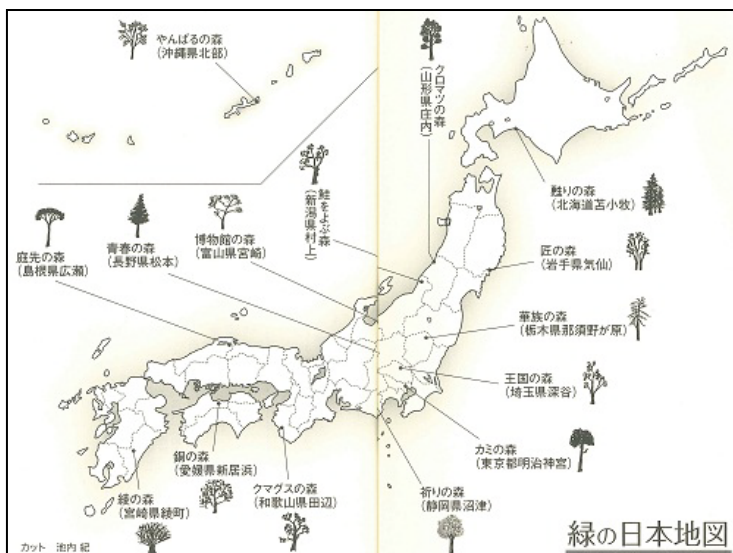
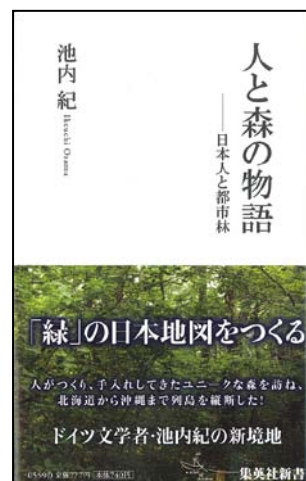
本書は、タイトルから分かるように、人と森の関わりを軸に、日本各地の森を訪ね歩くエッセイです。北海道から沖縄まで 15ヶ所、その中に「綾の森」

も入っています。九州では唯一です。（地図参照）

綾の森の登場人物は、郷田實・中尾佐助・上野登です。共通項は「照葉樹林文化」で、この森を伐採の危機から守ったキーワードとして語られています。

「照葉樹林文化論は今日、学会において定着しており、教科書にもなっています。戦後に日本人が発表した学説のなかで、とびきり独創的で、雄大な視野をもち、さまざまな分野に広範な影響を及ぼした」と池内氏は評価しています。今西錦司隊長のマナスル登山偵察隊に参加した中尾佐助が、ヒマラヤ山麓を踏査する中で着想した同文化論。それが及ぼした影響の一つが、綾の森の保護運動だったわけです。

今、私たちが取り組んでいる「綾の照葉樹林プロジェクト」の源流は、まさにここにあることを改めて認識させられます。「あとがき」に“特にお世話になった書物”として9冊が書き出されています。その中の1冊は上野登『再生・照葉樹林回廊』（鉦脈社）です。 （おがわわたる・綾町）



照葉樹林展望コース

「照葉樹林だより」23号、26号でもお伝えしていた県有林遊歩道に、トレッキング案内看板を設置しました。綾照葉大吊橋付近から南に延びる尾根沿いを歩きます。展望ポイント（標高 509 地点）では、大森岳を遠望できるほか、照葉樹林を全体的に眺めることができます。また、トレッキングコースとして整備されているため落葉樹もあり、四季折々の表情を楽しむことができます。これからの季節、赤く染まるモミジが見ごろを迎えるでしょう。

※ このコースを歩く際は、大吊橋料金所で入山名簿にご記入ください。

案内看板設置完了！



「綾ユネスコエコパーク」登録へ、推薦決定！！



2011年9月28日に、「日本ユネスコ国内委員会 人間と生物圏計画分科会」が文部科学省で開催され、そこで綾町を中心とした地域が、ユネスコエコパーク（生物圏保存地域；BR）の登録地として、正式に推薦されることが決定しました。来年6月頃にはユネスコ本部（パリ）で登録の可否が決定されます。来年は町政80周年ということもあり、登録が期待されます。



事務局だより



◆ 「てるはの森の会」関連行事

8月	26日(金)	久米島講演
	29日(月)	げんだぼの森 草刈り
9月	1日(木)	げんだぼの森 草刈り
	3,4日(土・日)	九州環境教育ミーティング
	6日(火)	げんだぼの森 草刈り
	6日(火)	県有林遊歩道調査
	7日(水)	地域づくりワーキンググループ
	12日(月)	連絡調整会議
	13日(火)	生涯学習
	13日(火)	てるはの森の会定例会
	23日(金)	県有林遊歩道 草刈り
	29日(木)	県有林遊歩道 看板設置
10月	5日(火)	綾の照葉大吊橋リニューアルオープン
	6日(木)	地域づくりワーキンググループ
	11日(火)	生涯学習
	11日(火)	てるはの森の会定例会
	18日(火)	連絡調整会議

◆ げんだぼの森の木々、救出！！

今年は国際照葉樹林サミットの準備や後処理などに追われ、放置した期間が長くなってしまいました。そのため、背



丈以上に伸びたクズなどに悪戦苦闘。ボランティアの皆さんと2回の草刈りを行い、何とか苗木を救出することに成功！綾町のシルバー人材センターにもお世話になりました。来年こそは計画的に、と心に誓いました。

◆ 河野昭一先生を綾の森にご案内しました♪

10月6日(木)に、河野昭一先生(京都大学名誉教授・植物分類学)と先生の講座を受講されている方々を、川中の森にご案内しました。綾の森は植物の種類が多いと感心されていました。



◆ 第16回照葉樹林文化シンポジウム開催♪

10月16日(日)、綾てるはの森の宿に約80名が集いました。講演は探検家・角幡唯介氏の「ヒマヤの大峡谷に挑む」。パネルディスカッションは、「探検から生まれた照葉樹林文化論」でした。

◆ 九州環境教育ミーツ in 綾 開催決定♪

来年3月3,4日に、綾町での開催が決定しました。宮崎県では初めての開催となります。照葉樹林の恵みを受けた生活スタイルや文化に関する様々な分科会を開催する予定です。

会員募集中！

「てるはの森の会」では、綾の照葉樹林プロジェクトにご協力いただける会員を募集しております。

年会費	
個人サポート会員	2000円
家族サポート会員	3000円
団体サポート会員	5000円
法人サポート会員	10000円

会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年4回お届けします。プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

協賛企業



オーデマ・ピゲ財団
世界環境保護財団「オーデマ・ピゲ財団」の
設立10周年を記念し、日本で初めて支援
活動をする「てるはの森」に対して行います。